

特別講演Ⅰ

■ 2026年11月28日(土) 10:00～11:00 | ■ 第1会場（むらさきホール：5号館1階）

■ [JfMyAHGo] 特別講演Ⅰ

司会：鷺 春夫

講師：荒木 秀夫（徳島大学名誉教授、日本コ・オーディネーショントレーニング協会理事長）

10:00～11:00

[JfMyAHGo-01] 特別講演Ⅰ

特別講演 I



日本コーディネーショントレーニング協会 理事長

荒木 秀夫 先生

【略歴】

- 1975 年 東京教育大学体育学部健康教育学科（運動生理学講座）卒
- 1977 年 〃 大学院修士課程体育学研究科修了（体育学修士）
- 1982 年 筑波大学大学院博士課程体育科学研究科修了（学術博士）
- 1982 年 徳島大学教養部講師
- 1984 年 〃 助教授
- 1998 年 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授
- 2018 年 同退官
- 2018 年 （株）MP and C 顧問・日本コーディネーショントレーニング協会理事長

【所属学会】

日本体力医学会，日本体育学会，日本スポーツ心理学会，日本生理人類学会

【業績等】

著書 5 編、学術論文 81 編、一般論説等 55 編

コーディネーショントレーニング理論・実践論

身体に関わる学術分野において、歴史的には全体を構成する要素を分析的に限りなく追求する立場と、要素間の関係性を構成論的に追求する立場といった二つの学術的な流れがあった。今日においてもこの傾向は認められるが、一方で新たな視点として、全体においても要素においても共通した視点から統一的に捉えようとする傾向が 20 世紀初頭から散見されるようになった。今日では身体と精神との関わりについても、その理念は脳科学とともに認知科学、情報・システム工学、さらには生成 AI に代表されるコンピュータ科学の進展に伴い変貌しつつあるというのが演者の捉え方である。演者としては、これまでに身体運動制御への関心から、そのトレーニング実践のためのプログラムとして、"コーディネーション能力"を想定した実践プログラムを考案してきた。この背景には"身体性問題"が大きく関わっており、演者の立場は「脳、身体、精神の行動的側面を一つの回路として見做す」というものであった。

トレーニングのプログラム作成におけるエビデンスは演者自身の脳波・脳電位等の生理学的データ等を基本に、その解釈においては"身体性問題"、すなわち精神と身体を一体的に捉えるシステムとしての科学的、思想的変遷に着目することを基盤としている。現在のロボット工学や ICT 関連分野の設計などに至る流れを概観すると、当初の"システム"は「安定性」といった問題、すなわち"システム"を内部構造的に捉えるといったものであった。やがて外部との関係性から「システムの維持」から「システムの適応」が重視されるようになり、今日においては「システムの創造」といった「先を制するシステム」ともいえる存在へと生成 AI に象徴される段階へと発展したとみなせる。この視点が本研究における作業仮説となる。

この 3 つの流れの解釈において、演者は運動・動作のみならず精神活動を含めた「行動」を念頭においた能力構造と、その発達を促すという課題を抱くようになった。一連の能力は三つの"コーディネーション能力群"として再編成し、各能力群を引き出す "コーディネーショントレーニング"を設計することとなり、演者としては胎児からの母子保健、幼児教育、神経発達症、少年の反社会行動、高齢者の認知症予防などメンタルヘルスの領域も含めた活動実践を行っている。

一般に身体活動や運動の分野では、トレーニングはエネルギー消費を伴う身体活動と捉えられやすいが、演者のコーディネーショントレーニングにおいては、「心身への刺激」を与えるという捉え方であり、そのトレーニング効果は活動や運動を体得したかどうかではなく、感受性という「刺激効果」を得たかどうか期待するものである。本講演では、これらの点を踏まえて、コーディネーショントレーニング論の基盤となったデータ解釈、トレーニング立案、そして成果等について報告することとする。